

第105回 発電用設備規格委員会 議事録

1. 日 時：2023年3月9日（木）10:00～18:20
2. 場 所：WebEX システムによるオンライン開催
3. 出席者：委員 27 名（委員代理含む）、敬称略

【委員】

笠原委員長(東大)、高橋副委員長(理科大)、伊阪幹事(関西電力)、鈴木(中部電力)、波木井(東電)、木村(NIMS)、堂崎(東北大)、町田、(TEPSYS)、浅山(JAEA)、大谷(MFBR)、酒井(横国大)、平野(日立GE)、渋鋏(IHI)、楠(日本原電)、爾見(発電技検)、中村(川崎重工)、三浦(電中研)、朝田(三菱重工)、山口(HSB ジャパン)、室伏(東芝 ESS)、川畑(東大)、高柳(電機協会)、増川(火原協)、藤田(三菱重工、火専長)、松永(東芝 ESS、原専長)、西井(電源開発、材専長)

【委員代理】

井上(火原協)：増川委員(火原協) 代理（一部）、戸張(QST)：橋爪委員(東北大、核専長) 代理

【欠席】

小山(日本製鋼所 M&E)

【アドバイザー】

なし

【常時参加者】

なし

【オブザーバ】

鈴木儀彦(三菱重工)、山田(中部電力)、野村(CS エンジニアリング)、高屋(JAEA)、小口(三菱重工)、白井(電中研)、清水(日立GE)、中村いずみ(都市大)、岡島(JAEA)、北条(三菱重工)、森田(電中研)、白水(関西電力)、志田(東電)、高田(東芝 ESS)、野本(JAEA)、角田(JAEA)、永田(日立GE)、大竹(日立GE)、佐藤(発電技検)、安田(三菱重工)

【事務局】

松岡、中村、渡邊

4. 配布資料

- 105-0：第105回 発電用設備規格委員会議事次第案
- 105-1：第104回 発電用設備規格委員会議事録案
- 105-2：発電用設備規格委員会名簿案
- 105-3-1-1：原子力専門委員会 高温ガス炉規格検討タスク（仮称）の設置提案について
- 105-3-1-2：(参考) 高温ガス炉開発の概要
- 105-3-2-1 R1_アルミバスケット事例規格案_規格委書面投票 No. 573 結果報告 20230328-1
- 105-3-2-2 R2_アルミバスケット材料事例規格案_公衆審査版からの変更 20230324-1
- 105-3-2-3-1_事例規格 本文_正式発行版向けチェック結果反映見え消し版 20230303-1
- 105-3-2-3-2_事例規格 添付-1_正式発行版向けチェック結果反映見え消し版 20230301-3
- 105-3-2-3-3 R2_事例規格 添付-1（解説）_正式発行版向けチェック結果反映見え消し版 20230324-1
- 105-3-2-3-4_事例規格 添付-2_正式発行版向けチェック結果反映見え消し版 20230301-2
- 105-3-2-3-5_事例規格 添付-2（解説）_正式発行版向けチェック結果反映見え消し版 20230303-1
- 105-3-2-4 R2_事例規格 正式発行版向けチェック結果反映クリーンアップ版 20230324-1
- 105-3-3：資料取扱要領内規の発行について
- 105-4：第94回 発電用設備規格委員会幹事会議事メモ
- 105-5：投票結果
- 105-6：発電用設備規格に関する質問受付及び回答状況
- 105-7：火力専門委員会報告

105-8：原子力専門委員会報告
105-9：材料専門委員会報告
105-10：核融合専門委員会報告
105-11-1：第 69 回規格類協議会議事録
105-11-2：2022 年度ピアレビューにおける J SME 対応状況
105-11-3_材料料審議規約案及び再発防止対策案 2 次投票結果
105-11-4_ASME Code Week（2023 年 2 月）概要報告
105-11-6_JSME 主要 3 規格の技術評価対応状況
105-11-6-2 第 2 回検討チーム会合における日本機械学会への説明依頼事項（設計・建設規格）
105-11-7：規格出版状況 104-11-6 設計・建設、材料及び溶接に係る日本機械学会の規格の技術評価の実施
105-12-0_規格委 No. 587_書面投票 意見と対応案_20230227_回答用_最終 R1
105-12-1【第Ⅵ章】新旧対比表 T110（20230301 規格委 No. 587 反映）
105-12-2【第Ⅶ章】新旧対比表 QW100（20230301 規格委 No. 587 反映）
105-13-0_#105 規格委_設計・建設分科会_審議案件
105-13-1-0_設計・建設規格 第 I 編「正誤表提案（DC22 22, 16, 20, 24, 25）」提案（発電用設備規格委員会書面投票対応）
105-13-1-1_DC22-22_解説での式の誤記_合本_R2V2_規格委員会
105-13-1-2_DC22-16_許容応力に対する特別な要求 JIS G4052_合本_R0V2_規格委
105-13-1-3_DC22-20_PPC&PPD-3424 穴補強適用条件正誤表_合本_R1V2_規格委
105-13-1-4_DC22-24_図 VVB-3320-1 矢印の抜け_合本_R0V2_規格委
105-13-1-5_DC22-25_図 VVB-3411-1 r1 寸法位置_合本_R0V2_規格委
105-13-2_NRA からの設計・建設規格の正誤表についての質問回答
105-14-0 溶接分科会審議案件
105-14-1_引用規格 JIS Z 3090 の適用年版の改定(案)規格委員会書面投票提案
105-14-2_溶接規格_正誤表(案)規格委員会書面投票提案
105-15-1 極限荷重法への FE 適用
105-15-2_補修章の地震荷重の見直し
105-15-3_補修章の正誤表（WOL 工法における評価規定の引用先の修正）
105-15-4_補修章の承認済みの正誤表の訂正
105-15-4_補足_補修章の承認済みの正誤表の訂正
105-15-5 2022 年版及び事例規格集への公衆審査意見対応（報告）
（105-16 欠番）
105-17_高温規格分科会審議案件リスト
105-17-1_公衆審査原稿からの修正_お知らせ案 R9
105-17-2_(ETD22-009) 付録材料図表の材料規格適用に関する改定
105-18-1 貯蔵分科会審議案件
105-18-2 金属キャスク構造規格改定提案 来歴表
105-18-3 規格委員会二次書面投票 no. 593 意見対応
105-18-4 公衆審査計画
105-19_配管減肉規格改定案_2022 年版公衆審査終了後の軽微な修正(追加)
105-20-01 2023_0309 耐震事例規格改定進捗報告
105-20-02 2023_0309 規格委員会 NC-CC-008 正誤表提案
105-21-1-1_環境疲労評価手法 2022 年版英訳版の軽微な修正提案 R3
105-21-1-2_2022 年版英訳版 軽微な修正の反映提案一覧表 R2
105-21-1-3_英訳版_修正箇所新旧比較表 R4
105-21-2_環境疲労評価手法 2022 年版の審議経緯と今後の進め方 R1
（105-22 欠番）

105-23-1_SA ガイドライン改定案_公衆審査版からの変更提案_原専メール審議結果報告
105-24-1_ガイドライン初版公衆審査提案
105-24-2_目標信頼性ガイドライン 公衆審査計画
105-24-3_ガイドライン公衆審査準備
(105-25 欠番)
105-26-1 規格委 LB No. 585 意見対応案 (推奨クリープ)

5. 議事内容

(1) 開 会

出席者を点呼し、定足数（委員総数の 2/3 以上）を満足することを確認した。

(1-1) 議事次第 確認

(1-2) 前回議事録の確認【資料 105-1】

事務局より概要が説明された。コメントを反映の上、承認された。

(2) 委員人事

(2-1, 2) 規格委員会及び専門委員会委員人事【105-2】

規格委員会及び各専門委員会の委員人事案件について報告・審議が行われ、全会一致で承認された。内容は以下のとおり。なお、規格委員会の人事については、次回理事会の承認を以て確定される。

➤ 規格委委員会

[再任] 波木井委員（東電）、町田委員（TEPSYS）、中村委員（川崎重工）、川畑委員（東大）、橋爪（東北大）、西井（電源開発）

[退任] 酒井委員（横国大、3/E）

[新任] ー

➤ 火力専門委員会

[再任] 長谷川委員（日鉄テクノロジー）

[新任] ー

[退任] ー

➤ 原子力専門委員会

[再任] 月森委員（福井大）、望月委員（大阪大）、三浦委員（電中研）、清水委員（IHI）、佐藤（原安審）、

[新任] 美原（鹿島建設）、デフランコ真子（日揮グローバル）

[退任] 兼近委員（鹿島建設）

➤ 材料専門委員会

[再任] ー

[退任] ー

[新任] ー

➤ 核融合専門委員会

[再任] 一ノ瀬（レゾナックテクノ）

[新任] ー

[退任] ー

(3) 優先的に審議すべき事案またはトピックス

(3-1) 高温ガス炉構造規格への対応について【資料 105-3-1】（説明者：高屋原専幹事）

原子力専門委員会で書面投票中の高温ガス炉規格検討タスク(仮称)の設置提案(原専書面投票 No. 705)について、最近の高温ガス炉の開発動向も含め紹介された。原子力学会等関連する学協会と適切に連携する必要があるとの意見や、規格の提案形態については、海外規格も参考に、ユーザの利便性及び規格開発のリソースを考慮して検討すべきとの意見等があった。

(3-2) 使用済燃料貯蔵施設規格 アルミ合金事例規格に関する審議：【資料 105-3-2】

(説明者：金属キャスク用アルミバスケット材料検討タスク（フェーズ2）波木井主査、永田タスク員）
アルミ合金事例規格案に対する公衆審査結果報告及び公衆審査版からの変更提案があり、審議が行われた。内容は以下のとおり。

- 公衆審査では意見は無かったことが報告された。
- 正式発行に備え事例規格原稿をチェックしたところ誤記等の不具合を発見したのでその不具合を修正した事例規格公衆審査版からの変更点リスト案（事例規格発行時に JSME HP にお知らせと共に掲示するもの）及びそれを反映した事例規格修正案の承認提案があった。
- 本提案は原専でメール審議が行われているので、そのメール審議での承認を条件に規格委員会のメール審議（No. 77）にかけることが承認された。

主な議論は以下のとおり。

- 松永原専長より以下の説明があった。
 - 公衆審査版に多数の不具合があったことを受け現状のルールでの規格案発行前のチェックを公衆審査前にするかについて原子力専門委員会共通課題検討会で議論する。
 - 事例規格の発行についてはタスクと使用済燃料貯蔵施設分科会で調整する。
- 事例規格は事例規格一覧表に掲載の上この一覧表と共に発行しなければならない。この一覧表も公衆審査マターなので本事例規格を発行する際は改めて事例規格一覧表も公衆審査にかけることにする（事例規格の内容自体はこの公衆審査の対象外）。

(3-3) 内規 原子力専門委員会資料取り扱い要領の発行に関する審議：【資料 105-3-3】

(説明者：事務局)

標記内規の発行について、事務局より経緯ならびに提案骨子が説明され、審議が行われた。内容は以下のとおり。

- 本内規は、原子力専門委員会資料を対象に、オブザーバ参加者及び委員会後の閲覧希望者に資料を配布するための手順を規定したものである。原子力専門委員会用語統一タスクにて策定され、2019 年 12 月の第 92 回規格委員会での審議を経て、規格委メール審議 No. 45 にて 可決された。ただし、「資料には再利用防止策として委員会クレジットを全ページに入れるべき」との意見が出されたが、同時に内規の早期成立を優先して保留とはしない旨、付記されていた。
- その後、コロナ禍に入って委員会の開催が半年以上中断され、メール審議の意見対応について未審議のまま内規が発行されない状態となっていた。改めてメール審議の結果を確認し、内規を発行することを提案する。なお、意見対応については会議開催方法が web 主体に変更されていることを踏まえ、改めて対応を検討する。
- 挙手による採決の結果、本日付で本内規の発行することが満場一致で承認された。

(4) 発電用設備規格に関する審議

(4-1) 発電用火力設備規格に関する審議：【資料 105-12】

(説明者：火力専門委員会 藤田委員長、火専溶接分科会 鈴木主査)

- 詳細規定 第 VI 章 非破壊検査、第 VII 章 溶接施工法・溶接技量の審議：誤記調査結果に基づく修正提案について規格委書面投票 No. 587 に対する意見対応案について説明が行われた。挙手による採決の結果、意見対応案が承認され、本修正案が確定した。

(4-2) 発電用原子力設備規格に関する審議

原子力専門委員会松永委員長から概要を説明後、各分科会代表から個別に議案の説明及び審議が行われた。各規格の審議結果は以下のとおり。

(4-2-1) 発電用原子力設備規格 設計・建設規格：【資料 105-13】

(説明者：設計・建設分科会 朝田主査)

設計・建設規格<第Ⅰ編 軽水炉規格>に関する審議が行われた。内容は以下のとおり。

- 正誤表発行の審議：5件の正誤表発行提案があり、書面投票を行った結果、反対はなく、DC22-22に対しては参考意見が3票、DC22-24には保留意見が1票、DC22-25に対しては参考意見が1票出された(資料105-13-1-0～5))。審議の結果、DC22-22の第5章 管のNo.5は取り下げることで承認された。また、提案資料の資料105-13-1-0の添付-Aに誤記があり、修正することとなった。
- ① [DC22-22] 解説での式に対する正誤表
- ② [DC22-16] 許容応力に対する特別な要求のJIS G 4052に対する正誤表
- ③ [DC22-20] PPC/PPD-3424 穴の補強の適合条件に対する正誤表
- ④ [DC22-24] 図 VVB-3320-1 矢印の抜けに対する正誤表
- ⑤ [DC22-25] 図 VVB-3411-1 r1 寸法位置に対する正誤表
- 報告：NRA から設計・建設規格の図 添付 4-A-2 に対する正誤表について質問があり、その回答を作成した。正誤表の対象は指摘のあった図そのものではなく、下線のある用語の方である。承認され、NRA に回答することが承認された。(資料105-13-2)

(4-2-2) 発電用原子力設備規格 溶接規格：【資料105-14】

(説明者：溶接分科会 小口幹事)

- 2024 年版改定案の審議：引用規格 JIS3090 適用年版改定の反映について提案説明が行われた。挙手による採決の結果、書面投票を実施することが承認された。
- 溶接規格 2022 年版の正誤表発行の審議：誤記について正誤表の発行が提案された。挙手による採決の結果、書面投票を実施することが承認された。

(4-2-3) 発電用原子力設備 維持規格に関する審議【資料105-15】

(説明者：維持規格分科会 野村主査)

- 規格委員会書面投票意見対応案：以下について意見対応案が説明され、更に意見交換を行い、継続審議することとされた。
 - ・極限荷重評価法への有限要素解析の適用：資料105-15-1
- 新規提案：以下について提案説明が行われ、書面投票を行うことが承認された。
 - ・補修章の地震荷重の見直し：資料105-15-2
- 正誤表発行の審議：正誤表の発行提案及び訂正提案があり、書面投票を行うことが承認された。
 - ・補修章の正誤表 (WOL 工法における評価規定の引用先の修正)：資料105-15-3
 - ・補修章の承認済み正誤表の訂正：資料105-15-4
- 維持規格 2022 年版及び事例規格集への公衆審査意見対応の報告：メール審議の結果の報告があった。(資料105-15-5)

(4-2-4) 発電用原子力設備 材料規格に関する審議：審議なし【資料105-16 欠番】

(説明者：材料分科会 山田主査)

(4-2-5) 発電用原子力設備規格 高速炉規格等に関する審議【資料105-17】

(説明者：高温規格分科会 高屋主査)

- 高速炉規格 2022 年版に関する公衆審査版からの修正提案 (資料105-17-1)：提案説明が行われ、挙手による採決の結果、実施中の原子力専門委員会のメール審議可決を条件に規格委員会のメール審議を行うことが承認された。
- 高速炉規格 2024 年版改定案の審議：付録材料図表の材料規格適用に関する改定 (資料105-17-2) について提案説明が行われ、挙手による採決の結果、実施中の原子力専門委員会の書面投票可決を条件に規格委員会の書面投票を行うことが承認された。

(4-2-6) 使用済燃料貯蔵施設規格に関する審議【資料 105-18】

(説明者：白井主査)

- 金属キャスク構造規格改定案の公衆審査：規格委 2 次書面投票 (No. 588) の可決を受け、公衆審査の実施が提案された。挙手による採決の結果、30 日間の書面投票を実施することが承認された。
- 2 次投票書面投票の反対意見対応について、本日の可決確認を以てシステム上の意見対応期間を打ち切ることが了解された。

主な議論は以下のとおり

- アルミ合金タスクから提案された事例規格を含め、事例規格集の取り扱いはどう考えているか？⇒事例規格集を含めない本体部分として公衆審査を行うこととしたい。
- アルミ合金事例規格廃止の際に立案されたトラブル防止対策の見直しについて、規制庁への説明が必要となるのでレビューなど協力をお願いしたい。

(4-2-7) 配管減肉管理規格【資料 105-19】

(説明者：配管減肉分科会 中村主査)

- BWR 配管減肉管理技術規格 公衆審査版からの追加変更：出版原稿のチェックにおいて、フロート状態の数式が行ずれを起こし、本文の変数説明が式より前になる不具合が見つかり、出版原稿を修正することが提案された。審議の結果、挙手による採決により、修正提案が承認された。

主な議論は以下のとおり。

- 数式部分が本文からフロートした形式であることがミスの背景にある。抜本的な解決策としてフロート形式を止めて数式を本文に埋め込む対応を検討すべき。⇒今回は 2 次的なミス为了避免のためにフロートのままで処置した。御指摘の点は今後の課題としたい。

(4-2-8) 配管耐震評価に関する事例規格に関する審議：【資料 105-20-1、105-20-2】

(説明者：中村いずみタスク主査)

- 規格委書面投票 No. 575 の投票が可決されたことを確認した。
- 2019 年版に対する正誤表発行の提案がなされ、原子力専門委員会書面投票の可決を条件に規格委員会の書面投票を行うことが承認された (規格委書面投票 No. 596)。

(4-2-9) 環境疲労評価に関する規格の審議【資料 105-21】

(説明者：疲労評価分科会 高橋主査)

- 英訳版の軽微な修正：発行版 (和文) について、公衆審査後の軽微な修正に対する規格委員会メール審議 No. 69 で可決されたことを受け、別途規格委投票 No. 588 にて承認済みの英訳版に対して和文の修正を行うことが提案された。審議の結果、原子力専門委員会でのメール審議可決を条件に 15 日間の規格委メール審議を行うことが全会一致で承認された。

(4-2-10) 発電用原子力設備規格 コンクリート製格納容器規格に関する審議：審議なし【資料 105-22 欠番】

(4-2-11) 発電用原子力設備規格 シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドラインに関する審議【資料 105-23】(説明者：SA 対応分科会 永田主査)

「シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン整合化による改定案」の公衆審査版からの変更提案に対する原専メール審議 No.123 投票結果及びガイドライン改定版について以下の報告があった。

- 前回規格委ではこの原専メール審議 No.123 の承認を条件に公衆審査版からの変更提案が席上で承認された。
- 原専メール審議 No.123 は賛成 24, 反対 0, 保留 0, 未投票 1, 意見 0 で承認されたことから前回規

格委員会での承認の条件を満足した。

- 現在事務局と相談しながらガイドライン改定版の正式発行準備を行っている。

(4-2-12) 目標信頼性評価に基づく静的機器の構造評価ガイドラインに関する審議 【資料 105-24】

(説明者：目標信頼性検討タスク：岡島幹事)

- ガイドライン案に関する書面投票の意見対応に関するメール審議 No.76 が意見無しで可決要件を満たし、意見対応が終了したことから公衆審査の開始が提案された、
- 挙手による採決の結果、ガイドライン案に対して 2 ヶ月間の公衆審査を開始することが承認された。

(4-2-13) 竜巻影響評価ガイドラインに関する審議：審議なし 【資料 104-25 欠番】

(4-2-14) 「推奨クリープ・クリープ破断試験方法に関する審議【資料 105-26】(説明者：材料専門委員会 材料規格統合化分科会 山田主査)

- 規格委員会再書面投票 (No. 585) で出された賛成意見を反映した修正案について編集上の修正であることが説明され、了承された。よって本件は成案となり原子力専門委員会 材料分科会にて材料規格への取込み検討が開始されることとなった。
- 朝田委員より、成案となった「推奨常温・高温引張試験方法、推奨クリープ・クリープ破断試験方法」を CS キャビネットの所定のフォルダに投稿するようコメントがなされ、投稿するとの回答がなされた。

(5) 発電用設備規格委員会活動状況報告応

(5-1) 規格委員会幹事会報告 【資料 105-4】

伊阪幹事より 2/20 に開催された第 94 回規格委員会幹事会の概要について説明が行われた。

(5-2) 書面投票結果 【資料 105-5】

事務局より書面投票の実施状況について資料により報告された。

(5-3) 質問受付回答状況 【資料 105-6-1】

事務局より、質問の受付及び回答状況について報告された。

(5-4) 公衆審査報告 【資料 105-6-2】

事務局より、以下の発電用原子力設備規格の改定案に関する公衆審査が終了したことが報告され、同規格を 2023 年版として制定することが確認された。

- ・使用済燃料貯蔵施設規格 金属キャスク構造規格 事例規格「バスケット材料としてアルミニウム合金及びほう素添加アルミニウム合金を使用する場合の規定」

(5-5) 火力専門委員会報告 【資料 105-7】

火力専門委員会の活動状況について資料により報告された。内容は以下のとおり。

- 3/1 に WEB 開催された第 103 回火力専門委員会の結果を中心に報告された。
- 次回 第 104 回火力専門委員会は 6/2 に WEB 開催の予定。

(5-6) 原子力専門委員会報告 【資料 105-8】

原子力専門委員会の活動状況について資料により報告された。内容は以下のとおり。

- 3/2-3 に 対面+WEB 形式で開催された第 113 回原子力専門委員会の結果を中心に報告。
- 次回 第 114 回原子力専門委員会は 6/7 に WEB 開催の予定。

(5-7) 材料専門委員会報告 【資料 105-9】

材料専門委員会の活動状況について資料により報告された。内容は以下のとおり。

- 3/1 に WEB 開催された第 57 回材料専門委員会の結果を中心に報告。
- 次回 第 58 回材料専門委員会は 6/6 に WEB 開催の予定。

(5-8) 核融合専門委員会報告【資料 105-10】

核融合専門委員会の活動状況について資料により報告された。内容は以下のとおり。

- 2/24 に web 開催された第 81 回核融合専門委員会の結果を中心に報告。
- 次回 第 82 回核融合専門委員会は 6 月初旬に WEB 開催の予定。

(6) 委員会運営に関する報告／審議

(6-1) 原子力関連学協会規格類協議会の活動状況報告【資料 105-11-1】

伊阪幹事より規格類協議会の活動状況について報告された。内容は以下のとおり。

- 昨年 12/15 に開催された第 69 回協議会の議事録及び第 70 回協議会に先だって 2/22 に開催された幹事会の概要が報告された。
- 幹事会において機会学会より、設計・建設規格、材料規格等を対象とする規制庁技術評価の状況について報告を実施した。

(6-2) ピアレビュー活動状況【資料 105-11-2】

伊阪幹事より、ピアレビューの活動状況について報告が行われた。内容は以下のとおり。

- 2/27 に 12 機械学会において現地レビューが実施された。
- 改善を要する事項の指摘はなく、ホームページ上で投票と意見対応をリアルタイムで情報共有している点など 4 項目が良好事例として抽出された。
- 制定プロセスに主眼を置いたピアレビューが 3 学協会に対して一周りし、来年度以降の実施方法をどうするかが今後の課題として挙げられている。

(6-3) ASME Code 委員会に関する報告【資料 105-11-4】

原子力専門委員会 松永委員長より、2/5～2/9 を中心に開催された ASME B&PV Code 委員会のうち、JSME 規格委員会の運営に関連が深いと考えられる次の委員会の概要が報告された。

- ・ ASME/JSME Joint TG Severe Accident (2/7 開催)：添付-1
- ・ ASME/JSME Joint WG RIM Process and System Based Code (2/5 開催)：添付-2

また、同 Code Week での ASME Sec. III に関する成果を統括する News Letter について紹介があった。(添付-3)

(6-4) 規制庁による民間規格技術評価の対応状況報告【資料 105-11-6】

高橋副委員長より技術評価の対応状況について報告された。内容は以下のとおり。

- 2/2 第 1 回検討チーム会合が公開で開催され、技術評価が公式にスタートした。
- 対象となる設計・建設、材料、溶接、SCC 事例規格の 4 規格の概要を説明の上、設計・建設及び材料 2 規格に対して事前に規制庁より質問が送られた質問への回答を説明した。
- 設計・建設規格では、クラス 1 支持構造物に対する極限解析の評価、2 規格共通として他規格を取り込む際の考え方などについて質疑が続いている。

(6-5) 発電規格 2020 年版の出版状況及び電子配信に関する報告【資料 105-11-7】

事務局より、規格の出版ならびに電子配信の状況について報告があった。内容は以下のとおり。

- 電子配信に対する 2022 年度の決算について、理事会に提示した目標を達成したことが報告された。
- 公衆審査が完了した規格の出版について、1 月の出版センター会議及び 2 月の理事会での審議状況が報告された。

(7) 今後の予定

次回の発電用設備規格委員会の開催予定は以下のとおり。

- 第106回 発電用設備規格委員会：2023年6月20日(火) 10：00～17：00(対面+WEB)

以 上